

## 春彼岸追悼回向文

敬つて真言教主大日如来、两部界会、諸尊聖  
衆殊に総じては安養寺本堂本尊薬師如来、観音  
堂本尊聖者観世音菩薩 当山中興弘法大師別  
しては歴代先師尊靈、総じては仏眼所照一切三  
宝の境界に白して言さく。

本日嚴冬からの冷氣治まりて日本一の湖沼、

琵琶湖の湖上を渡る春風は暖く駘蕩なり。天平

時代よりの悠久の歴史を刻みたる湖南の古刹、

東方山安養寺のいらか萱は春光に輝き、薬師堂、観

音堂虹梁は五彩を中天に放つ。寺容はますま

す整然と佇み、人をして信心を生起をせしむ

可く、熊谷俊亮住職が苦心したる経営の成果な

り。熊谷和尚は持ち前の明朗さと乱れもつれる

麻を切る例えの如く、物言をてきばきと処して

ゆく快刀乱麻を断つ、の大英断を以て幾多の困

難をのり越えられ和尚こそ護法篤実の権化で

ありひたすら仏道を行じ玉える真言行人であ  
らせられる。尊いかな。

こうして本年も無事に春彼岸会を迎え満堂

へいぜん

の檀信徒のご参詣を戴いているのも平生の心

しりよ

がけの集計に他ならない、と思慮するものなり。

おもむ

とくに当山における法要儀式は、懇ろに経文

を読誦・梵唄に加え大師流安養寺慈苑講ご詠歌

の奉詠、韻律の調べ豊かに荘嚴され、仏・菩薩  
を讃えてご参詣者の心底に響きわたらせ密嚴

浄土の世界はかくやとばかりこの世に顕現し

ほうふつ

て髣髴とせしめんとするものなり。

よってこの法要の功力、修行によって有縁の

ご先祖が追福菩提追悼の冥加、冥利をこうむら  
れんことを至心に祈られるものなり。

さらにお彼岸の功德は、命の発見仏のお慈悲  
に出会う最良の七日間である、

か いま

彼岸を彼の岸といい、仏の座す仏国土をいう。

反対に私どもの住むこの世を此岸しがんという。此の

岸此岸においては、照る日、曇る日、疾風が荒

さかま

くらやみ

れ狂い、怒濤の逆巻く世界なれどこの暗闇をさ

迷う私どもを仏は見捨てず救いの船を与え賜

うものなり。その船を六波羅蜜と名付ける。布

にんにく

施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧の六つである。

一つ、布施とは、ガリガリの欲ばり亡者にならず人に物心両面に亘って施す。豊かな心の人となる。二つは持戒、よく規律を守り。節度を心得た生活をする。三つは忍辱、無理をせず、辛抱を続けて丁寧な生活をする。四つは精進、怠りなく努力を持続してゆく。五つは禪定、あわただしさから一息をつきなさい。ありのままの今の心を見る。六つは智慧、身勝手な知識で惑うことなく、真実の教えにあって智慧を求めらる。

この六つの徳目から教わることは、「心の港」をもってこの徳目の船に乗り航海をして再び

「心の港」に入港する人生の航海をさすものである。

こうして七日間の彼岸中を自分を見つめる七日間、先祖の偉業を振り返り感謝する七日間、

みたま

先祖の御霊を供養し心を洗う七日間、お世話になつた方にも心を寄せる七日間、ともに助け合  
い励まし合つて心を此の岸、つまり、此岸から

すなお

仏の心の彼岸へと渡し、明るく素直に一步一步

むげ

と歩み続ける障りのない無碍の一道を――。

あのかたたらさんみやくさんぼだい

阿耨多羅三藐三菩提

ご参詣のご尊台各位の健康増進、家内繁栄 子  
孫長久

乃至法界 平等利益

平成三十年三月二十一日

京都府向日市寺戸町西垣内十五―六四

亀光庵

土口哲光 敬白